

# 国語科学習指導案

日 時 平成20年 7月4日(金) 1校時  
学 級 2年5組 男子19人, 女子17人 計36人  
授業者 渡 邊 康 二

## 1 単元名(または題材名) 豊かな言葉 「短歌を味わう」

### 2 単元について

#### (1) 生徒観

生徒達は、2学年進級後、新たな学級にも慣れ、楽しみながら学習に取り組んでいる。挙手しての発言や、2分前学習など、積極的に学習活動に取り組む姿も見られる。この「短歌を味わう」は、生徒達が中学校で初めて出会う短歌の教材である。しかし、生徒達は小学校6学年において、「短歌・俳句の世界」という教材を通じて短歌に親しんでおり、短歌についての知識も持っている。また、詩歌としては2学年で「春に」という教材にふれ、詩歌における表現技法としていくつかの表現技法を学習した。また、作者の持つ思いや感動が、精選された言葉によって凝縮された世界を味わっている。

そこで今回の教材を、中学校での短歌との出会いの教材としてとらえる。短歌についての基礎知識、表現技法を押さえた後、三十一文字の短い言葉に込められた作者の思いや感動を、自分なりにイメージをふくらませて捉えさせる。捉えたイメージを文章で表現させることで短歌の持つ独自の世界観を読み味あわせたい。そして、その作品の魅力を自分なりの言葉で表現させることで、作品の深い読みへとつなげていきたい。

#### (2) 教材観

この題材において中心となる指導事項は、学習指導要領の「読むこと」のウ「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」である。この指導事項は、ここでの学習材「短歌を味わう」のような詩歌の学習で指導することが望ましいものである。ここでは、三十一文字という短い言葉の中に凝縮された独自の世界観に、言葉の一つ一つに注意して読み、捉えたイメージを文章に書かせることでふれさせていきたい。「短歌を味わう」は、北原白秋、正岡子規、そして石川啄木といった、近代日本の短歌界を代表する三歌人の歌を中心に、短歌の基礎知識をはじめ、短歌表現における心と言葉のかかわりや、内容と形式の問題というきわめて深く本質的な問題を、例歌を用いてわかりやすく記述している。また、発展教材として、巻末には「短歌十二首」という特集教材もあり、短歌を詠むという学習の経験を、さらに豊かなものにできるように配列されている。合わせて、言語事項(1)のウ「抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること」を指導する。

#### (3) 指導観

そこで指導に当たっては、選択した短歌について、作者が三十一文字の短い言葉に込めた思いや感動を、自分なりにイメージをふくらませて捉え、文章化していく学習と、その短歌の魅力について自分なりの批評を加えていく学習を中心に据える。そのために、短歌の基礎知識の学習、表現技法の学習を行い、短歌学習の土台を築いた後、選択した短歌について「いつ」「どこで」「音・色・匂い」など、言葉から読み取れるイメージを学習シートにまとめ、それをもとに文章化させていく。自分の捉えたイメージを他の生徒と比較していくことで、自分の考えを深めさせ、言葉に対する感覚を磨く場ともしていきたい。さらには、その作品の魅力(表現技法、主題のとらえ方、優れた言語感覚)を自分なりの言葉で文章にまとめていくことで、主体的な読みを促し、作品の深い読みにつなげていきたい。また、学習のまとめとして、まとめた情景と作品の魅力について、他のグループの生徒に伝えていく活動を行うことで、目的意識を持って学習に取り組ませたい。なお、短歌の選択については、生徒に選択させるのではなく、こちらから各グループごとに短歌を与え、与えられた短歌とじっくりと向き合うように指導していきたい。

### 3 自分の思いや考えをみつめさせ、自分を変えさせていく学び方の構想

#### (1) 「自分をみつめさせる」場のあり方

このための学習活動として、自分なりの批評を加える学習の中で、今回学習する短歌の知識や表現技法を土台に、この短歌の魅力について ①学習シートに箇条書きで自分の考えをまとめる ②グループ学習の中で意見を交流する ③文章化することで自分の考えを再構築する の流れを確立させていきたい。①学習シートに項目ごと箇条書きで自分の考えをまとめる学習では、作品の魅力を、これまでの既習事項を活かしながら自分なりに捉えさせるように指導していく。②グループ学習の中で意見を交流する学習では、話し合いの観点を示し、小グループの中で司会者の進行のもと、学び合い学習の場としたい。交流のなかでは、出された意見について自分はどう思うのか、切り返しの発問をさせることで、多様な考えを交流させる場としていきたい。③自分の考えを再構築する学習では、小グループでの意見交流、教師との対話を経てより深く作者の思いや感情にふれる場としたい。そして、課題の追究として、前時にまとめた作品の情景と、本時にまとめた作品の批評を合わせ、鑑賞文の形にまとめることで論理的思考を促していきたい。

#### (2) 「自分をみつめる」評価のあり方

そのための手だてとして、自己評価カードの活用を行う。自己評価カードには、本単元での学習目標、学習活動を示し、それをもとにした、学習個人目標を立てさせる。そして、毎時間の振り返りと共に、単元終了時には、「自分がわかったこと」「できるようになったこと」「自分が変化したこと」の観点をもとに、自分を主語とした学習記録を記述させ、国語の力がどのように身についたのかを考えさせた振り返りを行わせたい。

### 4 単元の評価規準と指導の重点

国語に対する関心・意欲・態度	読むことの能力	言語についての知識・理解・技能
短歌に親しみ、表現の美しさを味わい、自分自身に共感できる作品を選ぶことができる。	<b>三十一文字という短い言葉の中に凝縮された独自の世界観に、言葉の一つ一つに注意して読み、捉えたイメージを文章に書くことができる。</b>	詩歌特有の抽象的な概念の言葉を理解し、自分の表現に活用することができる。

### 5 指導計画 (4時間)

- 第1次 本文を通じて、短歌についての基礎知識、表現技法を理解し、短歌三首を音読して味わい、「短歌一二首」から示した短歌について、自分のイメージをもとに項目ごとにまとめ、文章化する。(1.5)
- 第2次 小グループごとに選択した短歌について、自分のイメージをもとに項目ごとにまとめ、文章化する。(1)
- 第3次 小グループごとに選択した短歌について、短歌の優れている点を自分なりに文章にまとめ、鑑賞文を作成し、自分の作品を全体で発表する。(本時1 / 1.5)

## 6 本時について

### (1) 目標

三十一文字という短い言葉の中に凝縮された独自の世界を味わい、作品の魅力を自分なりの言葉で文章に書くことができる。

### (2) 指導の構想

本時は、前時の学習を想起し、共通の短歌から作られた文章の紹介から行う。前時に作成した文章の優れた点を紹介していくことで、本時の小グループでの活動や、個人での文章化の作業の参考とさせたい。本時は、前時選択した短歌の魅力を自分なりに文章化していく作業を学習の中心とする。そのために、導入では、短歌の鑑賞文を紹介する。短歌はその情景についてはほぼ同じ内容となるものの、作品の感じ方は人によって異なるといった鑑賞文の性質をふまえさせ、その違いを紹介し、本時の学習の見通しを持たせたい。学習活動としては、小グループごとに選択した短歌について、学習シートに自分の考えをまとめ、多様な考えを引き出し、それをもとに話し合いを行わせることで、自分の考えを深め、言葉に対する感覚を豊かに広げさせたい。

「自分をみつめる手だて」として、①自分の考えをもつ ②小グループでの交流 ③自分の考えを再構築の流れを取り入れた授業を行う。①自分の考えをもつ場では、既習事項を活かし、表現技法、作者のものの見方や感じ方について、自分なりに魅力的であると感じられる事柄（表現技法、主題のとらえ方、優れた言語感覚）を箇条書きでまとめる作業を行う。また、作者の感動の中心を捉えたものの、それを的確な言葉で表現することの難しい生徒については、ヒントカードを示し、自分の考えをまとめる一助としたい。②小グループでの交流の場では、①その短歌の魅力②そう考えた根拠を話し合いの観点として示す。話し合いの中では、出された意見について自分はどう思うのか、切り返しの発問をさせることで、多様な考えを交流させる場としていきたい。その後、小グループの中で出された意見を全体で交流させ、場合によっては、教師とも対話を組み入れながら、生徒の考えを確かなものへと導いていく。そして、③自分の考えを再構築の場では、交流の中で確かめられた自分の考えを、示された基本形に合わせて自分の考えをまとめることで論理的思考を促していきたい。

課題追究として、前時に作成した短歌の情景と、本時にまとめた作品の魅力を、1つの文章にまとめさせ、鑑賞文とすることで、生徒の短歌を読む力を育てていきたい。

終末では、自己評価を記入させ、本教材を通じて身についたと感じられる力について、自分を主語とした文章でまとめさせ、自己を振り返らせていきたい。

### (3) 具体の評価規準

観 点	概ね満足できると判断できる状況 (B)	充分満足できると判断できる状況 (A)	努力を要する生徒への支援の手だて例	評価の方法
国語に対する関心・意欲・態度	短歌の魅力について考えたり、まとめたろうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えの豊かさ</li> <li>発言の熱意</li> <li>自分なりの観点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌の解釈の例示</li> <li>語句の意味の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シートへの記述状況</li> <li>発言</li> </ul>
読む能力	短歌の魅力について、自分の言葉でまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>用語の的確な使用</li> <li>豊富な表現力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本形の確認</li> <li>自分の考えをまとめるための語句の提示</li> <li>手だての確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シートの記述内容</li> </ul>

(4) 展開

学習過程	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	留意点・備考
1 課題作り 2 課題を設定する  (4分)	1 前時まとめた情景の作品例を紹介することで学習を想起する。 2 鑑賞文を比較し、作品のとらえ方に違いがあることを確認することで本時の学習課題を把握する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             作品の魅力を文章にまとめよう           </div>	1 前時の学習内容を確認する。 2 鑑賞文を比較し、作品のとらえ方に違いのあることを確認する。	○紙板書  ○紙板書
3 自分をみつめる  4 交流する  5 自分の考えを再構築する 6 課題を追究する  (38分)	(学習の見通しを持つ) 3 前時に情景をまとめた短歌について、学習シートにまとめることで、自分の考えを持つ。 4 自分の気づかなかった考えを受け止める交流をすることで自分の考えを深める。  5 文章の形にまとめることで、自分の考えを再構築し、短歌の持つ情景に迫ることができる。 6 前時にまとめた作品の情景と本時にまとめた批評を合わせて文章にまとめることで、短歌の持つ世界観に迫ることができる。	(学習の流れの確認させる) ①自分の考えをまとめる ②グループでの交流 ③グループで出された意見を参考に文章にまとめる 3 学習シートに、作品の魅力について既習事項を活かしながら自分の考えをまとめる。その際は、根拠となる表現を挙げさせながらまとめさせる。 4 個人の考えをグループで交流させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             話し合いの観点             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートに書かれた自分の考えの発表</li> <li>・そう考えた根拠</li> <li>・出された意見について、自分はどうか。それはなぜか。</li> </ul> </div> ・話し合いの結果を発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             発表する内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで選んだ短歌</li> <li>・交流の中で出された意見</li> </ul> </div> 5 グループで出された意見を参考にし、作品の魅力を文章をまとめさせる。 6 前時にまとめた作品の情景と本時にまとめた批評を合わせて文章にまとめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             基本形             <ul style="list-style-type: none"> <li>・この短歌は～といった情景を描いている。この作品の魅力は～という～の点である。</li> <li>・それは～のことであった。わたしはこの短歌の～について魅力を感じるのである。</li> <li>・この短歌は～の情景を表すために～をつかうなど、～な歌となっている。</li> </ul> </div>	○学習シート ※考えをまとめられない生徒には、ヒントカードとして魅力をまとめるための語句を示す。 ○小グループでの学び合い ・小グループでの話し合いでは、出された意見については、自分はどうか、切り返しの質問をさせる。  ○学習シート ○学習シート まとめ方については基本形を示し、主体的な活動を促したい。
7 まとめる・ふりかえる  (8分)	7 他の作品を聞くことで、鑑賞文の性質、短歌の読み方を理解する 8 学習記録をまとめることで、本時の学習を振り返る。	7 優れている作品について教師の解説を加える。 8 本時の学習記録をまとめさせる。	○教師からの提示  ○自己評価カード